

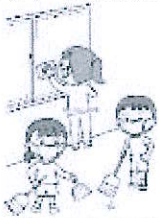
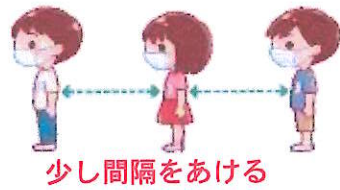
「新しい生活様式」に基づく学校生活の流れ

令和4年1月

令和4年1月24日～3月末までの対応

寺崎小学校

	児童・生徒	教職員
登校	○集団登校では密接にならないよう間隔をあけて登校します。 ○マスクを着用しますが、人との距離が十分とれば、マスクを外せます。ただし、会話をしません。 	○登校時は身体的距離の確保等について指導します。 少し間隔をあける 
学校に着いたら	○登校時に健康観察カードを提出します。健康観察の点検を受けてから教室に入ります。 ○昇降口では密集にならないようにします。 ○荷物を整理してから、まず手を洗います。 	○登校指導の中で、身体的距離の確保やマスクの確認をします。 ○昇降口や廊下等で健康観察カードを確認します。場合によっては家庭に確認します。 ○水飲み場前での密集を避けるように指導します。 ⇒適切な間隔を開けるようにポイントを打ち、蛇口から直接水を飲むことがないようにします。
朝の会	○担任の先生による健康観察を行います。	○体調の確認を行い、体調不良の際には、保護者へ連絡し、管理職へ報告します。
授業中	○以下の学習活動は感染のリスクが高いものであるため、感染状況がおさまるまで控えます。 ・近距離で対面形式となるグループワーク ・理科における生徒同士の実験や観察 ・近距離で一斉に大きな声で話す活動（国語の音読や英語の発音活動等はできる限り小声で行う。タブレット等を活用し、家庭学習でも実施） ・図工、美術、技術等における共同制作や鑑賞 ・合唱はマスクを着用して距離をとり、一方向で歌う（リコーダー、鍵盤ハーモニカ等の管楽器演奏は行わない。鑑賞や打楽器等を取り入れた授業を展開） ・家庭科における調理実習 ・体育における密集する運動や接触を伴う運動 ○上記以外の学習活動については、感染対	○授業形態を配慮します。 ⇒グループ活動や話し合い活動は、感染状況がおさまるまで控えます。 ○学習環境・内容を配慮します。 ⇒室内の換気を徹底します。 ⇒共用の物の使い方を指導します。 ⇒「新しい生活様式」を踏まえた学校の行動基準に従って段階的に授業を行います。 ⇒体育は、可能な限り屋外で実施します。授業では集団で行う活動は避け、なるべく個人で活動するように配慮します。 ⇒少人数で活動（球技のパスやシュート練習等）をするときは、十分な距離を確保します。 ⇒教室（更衣室）は常に換気をし、可能な限りマスクを着用しながら、短時間で無言で着替えるようにします。 ○教室の入口と出口を表示し、一方通行と

	策を実施しながら段階的に行います。 ○教材教具の貸し借りはしません。	なるようにします。
給食	○衛生管理を徹底した上で、配膳は給食当番と担任が行います。 ○食事の前後は、必ず手洗いをします。 ○配膳時や食事中は、大きな声を出さないようにし、会話は控えます。 ○座席は、前向きのまま食事をとります。 ○昼休みに健康観察を行います。	○給食当番の衛生チェックを行います。 ➡マスク・白衣の着用、手洗いの確認をします。 ➡体調を確認し、体調がすぐれない場合は当番を行わないように指導します。 ○体調の確認を行い、体調不良の際には、保護者へ連絡し、管理職へ報告します。
休み時間	○休み時間後は石けんで手洗いをします。 ○換気をして教室内の空気を入れ替えます。 ○会話をする際には、一定の距離を保ち、体を接触させるような遊びは行いません。大声を出したり、高笑いをしたりしないように気をつけます。 ○コロナ予防のための学校のルールを守りながら休み時間を過ごします。	○室内の空気が入れ替わるよう工夫して換気をします。 ○トイレが混雑しないよう、動線を示します。 ○トイレ・手洗い場の環境を確認します。 ○休み時間の過ごし方を見守り、体が接触するような遊びや活動を避けるよう声かけをします。 ○コロナ予防のための学校のルールを策定し、児童生徒が守るよう指導支援します。
清掃	○換気のよい状況で行います。 ○分散して清掃を行います。 ○トイレ清掃は、手袋を着用し、衛生面に気を付けて行います。 ○清掃後は石けんで手洗いをします。 	○子供たちと一緒に活動します。 ○密集しないように場所、時間、人数について配慮します。 ○家庭用洗剤等を有効に活用し、特に大勢が触れる箇所は、水拭き後、消毒液等で拭きとります。 ○終了後の手洗いの確認をします。 
帰りの会	○健康観察を行います。 ○異常があった場合は担任へ伝えます。	○体調の確認を行い、体調不良の際には、保護者へ連絡し、管理職へ報告します。
部活動	○当面、実施しません。	○家庭でできるメニューやトレーニング等を示し、感染状況下でも練習できるように支援します。
下校	○集団下校では密接にならないよう間隔をあけて下校します。 ○マスクを着用しますが、人との距離が十分とれれば、マスクを外せます。ただし、会話をしません。 	○身体的距離の確保について確認します。 ➡校門前、昇降口等で密集しないよう配慮します。 
全体を通して	○マスクについては、息苦しいと感じた時に自身の判断で外せます。外した場合はしゃべらないように気をつけます。	○マスク着用は、臨機応変に対応する。 児童生徒がマスクを自身の判断で外す場合は、私語等についての声掛けをします。